農業技術トピック
ときめき
no.373
2011 8-18
島根県農業技術センター

うね内施肥によるキャベツの施肥量削減

冬キャベツの栽培において、肥効調節型肥料を全量基肥としてうね内施肥すると、追肥作業を省略でき、窒素施肥量を約３割削減しても慣行と同等の収量が得られました。

キャベツの主産地である中海干拓地（中海干拓営農部ほ場）において冬キャベツ（品種：松波、夢舞台）を用いて「うね内施肥」と「肥効調節型肥料」を組み合わせた環境にやさしい施肥法の現地試験を行いました。

うね内施肥には、うね立て同時条施肥機（試作機）を使用しました。肥料中の窒素は速効性が50%、50日タイプが15%、70日タイプが35%配合されたものを全量基肥として施用し、追肥は行いませんでした。

うね立て同時条施肥機は、畝を立てながら表面から10cmの深さに肥料をスジ状に施用する装置で、慣行の全面施肥に比べ根の近くに肥料があるため吸収されやすく、流亡も少なくなります。

その結果、両品種とも施肥成分量を慣行に比べ、窒素で3割、リン酸で5割、加里で6割削減しても、収量は慣行とほぼ同じになりました。

図１　うね立て同時条施肥機によるうね内施肥

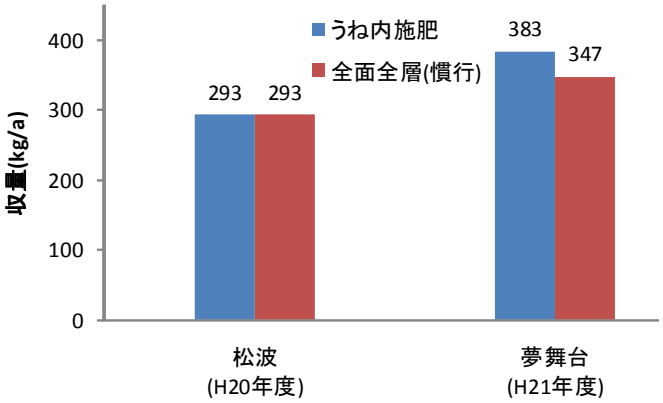

図２　施肥法と収量

図３　施肥位置の確認（深さ10cmの白い粒状肥料）

問い合わせ先：資源環境研究部 土壌環境G（担当：大倉角栄）　TEL ０８５３－２２－６９８４
E_mail:nougi@pref.shimane.lg.jp